



May 2020
Vol. 7 / 号外

生活衛生ニュース

発行：(株) 静環検査センター

静岡県藤枝市高柳2310番地 tel.054-634-1000 fax.054-634-1010

新型コロナウイルス考

はじめに

公衆衛生学が、これほど世間にクローズアップされたことはありません。新型コロナウイルスは、感染力が極めて強く、パンデミック(pandemic 世界的な感染拡大)を引き起こし、中国武漢市の発生から全世界の感染者数は5,404,512人、死亡者数343,514人に達し、その感染者の多い順位は、米国、ブラジル、ロシア、英国、スペイン、イタリアと続き、我が国も同様に深刻な事態を引き起こしています(5月26日現在、WHO発表)。

3月11日、WHOは、遅ればせの新型コロナウイルスのパンデミック宣言を行いました。4月7日、政府は、全国に緊急事態宣言を発令しました。また、4月16日、東京、大阪、北海道、茨城、埼玉、千葉、神奈川県、石川、岐阜、愛知、京都、兵庫、福岡の13都道府県を特定警戒都道府県とし、他県に対しても住民に外出自粛・各種施設使用自粛などの要請や指示を行いました。しかし、中国や欧米のようにロックダウン(lockdown 都市封鎖)は行いませんでした。

治療方法が確立していない中で、効果的なウイルス封じ込め対策は、「クラスター(disease cluster 集団感染)の把握 → 感染者隔離及び行動履歴追跡 → 濃厚接触者の検査」即ちPCR検査に併せて抗原検査の必要性が強く求められました。

緊急事態宣言の解除に向けて

5月14日、特定警戒地域の内、茨城、石川、岐阜、愛知、福岡の5県を含む39県が5月31日までの期限を待たずに緊急事態宣言が解除されました。ところが既に海外では、5月12日に第1波を乗り越えた中国武漢市でコロナ感染者が再発しており、全住民対象(1,100万人)にPCR検査を実施するとの報道がされ、また、韓国は、コロナウイルス感染が収

束し始め、「生活防疫政策」に転換していましたが、5月11日、ナイトクラブの客とその家族が集団感染し、その後100人を超えるクラスターが発生し、3,000人以上と連絡がとれず、全ての客などに対しPCR検査を行うなど、第2波の警戒を高めています。

5月21日、特定警戒地域の解除が、大阪、京都、兵庫の2府1県に対して行われました。また、東京、神奈川、埼玉、千葉の1都3県と北海道については、5月31日まで継続とされました。解除が行われても第2波、第3波の予防のため、3密の回避など新しい生活様式を実践していくことが大切としました。なお、5月25日、最後に残されていた特定警戒地域の東京、神奈川、埼玉、千葉の1都3県と北海道のすべてに解除が発令されました。

医療機関への人、物の支援を行うこと、外国からの入国時の検疫体制の強化、PCR検査及び抗原検査を増やし、市中感染率を割り出すとともに、陽性者は、隔離し、陰性者は、予防措置を講じながら社会活動を行うロードマップを作っていくことが求められます。なお、自治体は、独自に大阪モデルや東京アラートを発表し、また、経団連等各企業もコロナ対処のガイドラインを作成し、発表しました。

新型コロナウイルスの収束には

新型コロナウイルスの発生当初からPCR検査の不足や遅い対応が指摘されました。民間検査機関の活用が示されなかったからです。今後は、民間検査機関を積極的に活用する必要があることを社会が認識しました。世界中に猛威を振るっている要因は、感染力の強さと無症状・軽症者の感染者が約8割存在し、ここから感染する点が特異です。更に糖尿病や慢性肺疾患などの基礎疾患を持つ者や高齢者の重症化率や致死率が高く、また、基礎疾患の無い若年層も重症化例

や死亡例も確認されています。

感染拡大防止の第1の課題は、爆発的な患者の増加による医療機器不足と医師、看護師等医療関係者の人的不足です。第2は、無症状者のPCR検査や抗原検査で感染者の可視化が必要です。第3は、厚労省は、5月7日に米国で開発された抗ウイルス治療薬「レムデシビル」を薬事承認し、また日本製の「アビガン」も一定の効果が期待されていますが、ワクチンの早期開発が望まれます。第4は、医療従事関係者、検査関係者への支援や飲食店等営業者、学生、保育関係者、流通機関等の支援及び休業補償、生活費補償の問題も重要事項となります。京都大学iPS細胞研究所山中伸弥教授は、TV対談で「新型コロナウイルスとの戦いは短距離走ではなく、1年は続く可能性のある長いマラソンです。」と予測しています。収束には、全国民の一人ひとりの危機管理意識と協力体制の確保が求められ、一日も早い解決が望まれます。

食品衛生コンサルティングとマスク問題を考える

新型コロナウイルス感染症の流行で、飲食店等小規模事業者用、家庭用の使い捨てマスクの不足を招きました。5月下旬にようやく落ち着いてきたとはいえ、今後も再発しかねません。病院等医療用マスク(N95等)、検査機関、大手食品製造業等においては、作業内容ごと毎回、毎日取り換える必要があります。

しかし、家庭用使い捨てマスクは、主として、ウイルスの保有者が咳やくしゃみをするときの飛沫拡散防止のほか、冷たい外気を呼吸により温め喉に潤いをもたらしたり、口や鼻に触れないことの効用がある一方、ゴムで耳が痛くなったり、高温多湿の夏場では、熱中症やかぶれの原因にもなるため、使用時に工夫が必要となります。これは、ガーゼ、布製、不織布も同様です。新型コロナウイルスの大きさは、約100ナノメートルと細菌より小さいため、空気の吸引時には、マスクを通過してしま

次頁につづく

前頁からのつづき

う可能性が高いと思われます。一つのマスクを消毒もせず、ポケットやカバンに入れ何日も使い回しをすることは、避けなければなりません。コロナウイルスを毎日確実に消毒して、家庭用使い捨てマスクが長く使えることが理解されれば、日本のみならず全世界の家庭用使い捨てマスク不足の不安が一挙に解決できるものと期待できます。

「簡単な実験」を試みました。家庭には、消毒剤のアルコールや次亜塩素酸ナトリウム(NaClO)は、余り所有されていません。

1 本鎖RNAを持つコロナウイルスと共通するノロウイルスの不活化温度は、厚生省

の「大量調理施設衛生管理マニュアル」や「HACCPに基づく衛生管理」において、中心温度85℃～90℃、90秒間以上となっています。洗面器に使い捨てマスクを入れ、家庭の湯沸かしポットの熱湯(約98℃)で2分間浸し、もんだり、ゴムを引っ張りたりして乾燥させ、2 銘柄のマスクを10回実験したところ、肉眼的には、全く変化がなく十分使用できました。実際に14日以上使っても問題なく、特に脱臭効果もありました。

使い捨てマスクは、すぐ捨てないで、10回(10日)以上使用できるため、毎日熱湯で消毒し、繰り返し使用すれば、一人当たり、5枚もあれば1.5ヶ月、10枚で3ヶ月位は十分持ち、飲食店主や主婦

の「安心と心の安定」が得られます。

我々、食品衛生コンサルティングを展開する者は、街中の薬局等量販店の店頭からマスクが消え、飲食店主や主婦を困らせ、また、50枚3,000円以上の高額で販売されて、マスクの市場を混乱させている実態をみるにつけ、マスク不足を乗り切るには、ちょっとした知恵で飲食店等小規模事業者や家庭の主婦の不安を解消していくことも大切なことと考えています。「思わぬところにヒントがある」これが食品衛生コンサルティングに求められる感性です。

おわりに

本年4月、弊社は東京支店(文京区後

楽1-2-8後楽一丁目ビル6F)に東京食品衛生コンサルティング事業部を立ち上げました。食中毒等食品による事故の発生防止、食品営業施設の衛生管理、微生物、理化学検査のエビデンスに基づく食品衛生・品質管理及び食品取扱者の教育・訓練等のコンサルティングを展開しています。

(文責 山下 征洋)

(参考資料)

- 1) WHO 及び厚生省の HP
- 2) (公社) 日本食品衛生協会：「HACCP 導入の手引き」及び「食の安全を創る HACCP」

表1 国内の新型コロナウイルス感染症の発生状況※1

	PCR検査 (実施人数)	PCR検査 陽性者数 (感染者)	入院治療等を要する者		通院又は療養 解除となった 者の数	死亡者数	確認中 ※2
				うち重傷者			
国内事例 ※3	233,399	16,445	1,939	155	13,643	846	20
空港検疫	41,942	163	11	0	152	0	0
チャーター便 帰国者事例	829	15	0	0	15	0	0
合 計	276,170	16,623	1,950	155	13,810	846	20

※1：厚生労働省発表：2020年5月26日現在

※2：PCR検査陽性者数から入院治療等を要する者の数、入院又は療養解除となった者の数、死亡者の数を減じて厚生労働省において算出したもの。なお、再陽性者数を改めて計上していない県があるため、合計は一致しない。

※3：チャーター便帰国者を除く

表2 国外の新型コロナウイルス感染症の発生状況※1

順位	国・地域	感染者	死亡者	順位	国・地域	感染者	死亡者
1	米国	1,642,021	97,698	11	インド	131,868	3,867
2	ブラジル	363,211	22,666	12	ペルー	119,959	3,456
3	ロシア	344,000	3,536	13	カナダ	84,688	6,424
4	英国	259,559	36,793	14	中国	82,965	4,634
5	スペイン	235,772	28,752	15	サウジアラビア	72,560	390
6	イタリア	229,858	32,785	16	チリ	69,102	718
7	ドイツ	180,328	8,283	17	メキシコ	65,856	7,179
8	トルコ	151,827	4,340	18	ベルギー	57,092	9,280
9	フランス	144,921	28,367	19	パキスタン	54,601	1,133
10	イラン	135,701	7,417	20	オランダ	45,236	5,822

※1：厚生労働省発表(WHO：HP参考、2020年5月24日現在)一部抜粋。

〈参考〉 韓国：感染者11,206人、死亡者267人；台湾：感染者441人、死亡者7人。

最新の分析機器と高精度な技術で暮らしの安心、安全をサポートする

お問い合わせ

TEL 054-634-1000 FAX 054-634-1010
http://www.seikankensa.co.jp

株式会社 静環検査センター

静岡県藤枝市高柳2310番地